

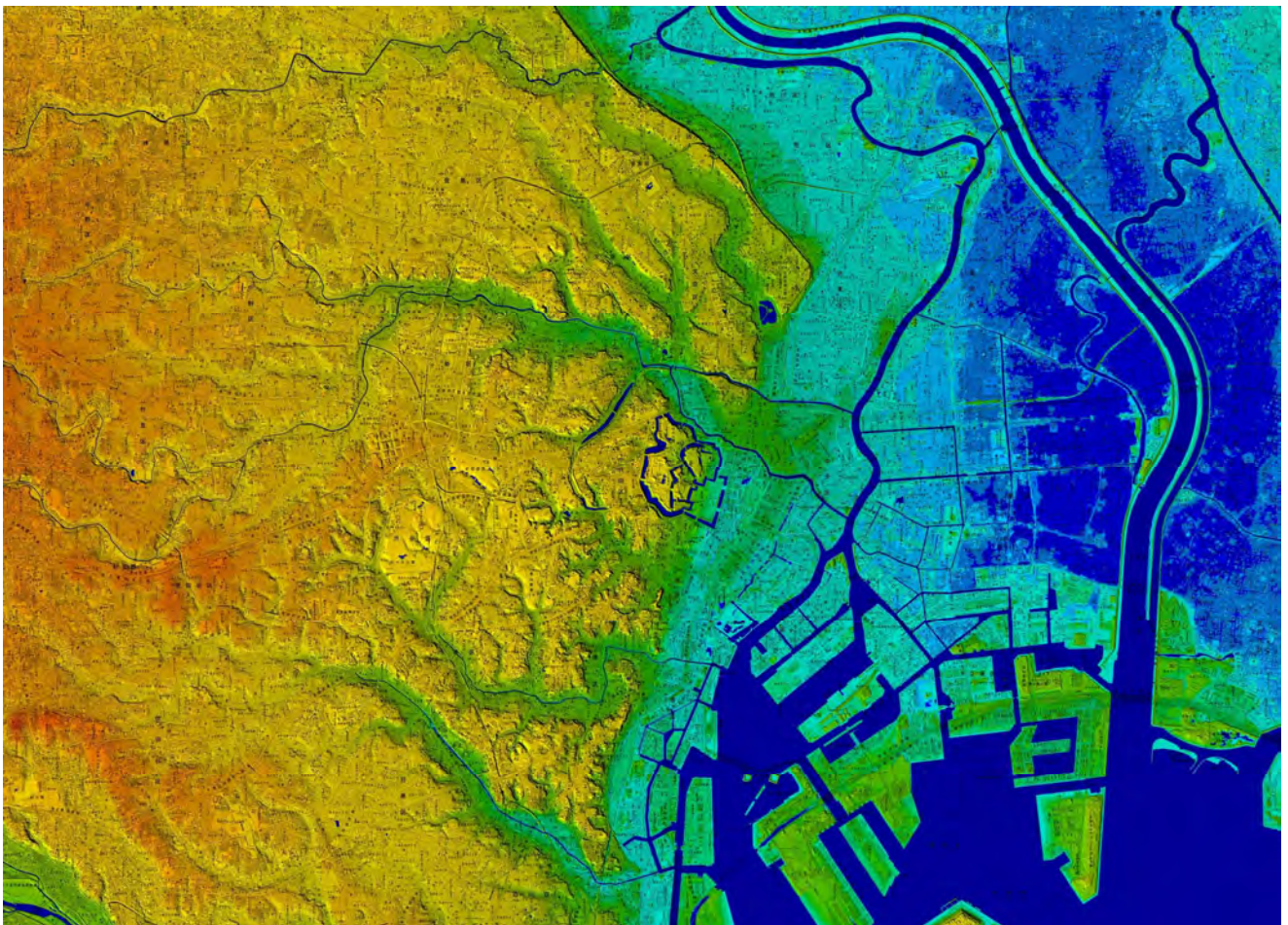
活用できる地理空間情報

災害は何時どこで起こるか分かりません。もしかして私たちの身の回りでも危険な場所があるかもしれません。減災のためにはその土地の災害に対する脆弱性を読み取れる地図やさらに安全な避難場所を盛り込んだハザードマップが減災につながります。

国土地理院では、各種ハザードマップの基礎資料となる防災に関する地理情報を表示した地図(主題図)を整備しています。

デジタル標高地形図

デジタル標高地形図は、航空レーザ測量によって整備された高精度な標高データを用いて作成した陰影段彩図の上に2万5千分1地形図を重ねた地図です。詳細な地形の起伏がカラーで表示された上に、地名や道路、学校などの位置が重ねて表示されているので居住地の地形特徴を直感的に理解することができ、ハザードマップ作成の基礎資料として活用が期待されています。



土地条件図など(「地形分類」のパネルを参考)

防災対策や土地利用・地域開発等の計画策定に必要な、土地の自然条件に関する地形分類(山地・丘陵、台地、段丘、低地、水部、人工地形など)について表した図です。

地形分類とは

昭和35年から、国土地理院では防災対策等に必要な土地に関する自然条件の基礎調査を目的とした土地条件調査が始まりました。

この土地条件図は、地形分類と地盤の高さ、公共施設や気象観測所などの各施設が掲載されています。この土地条件図の他にも地形分類を主眼とした主題図が作成されています。

※地形分類とは、対象となる地形や表層の地質を

①形態(どんな形をしているか)

②形成時期(いつ作られたか)

③構成物質(どんな物質でできているか)

④成因(どんな作用で作られたかとか)

の四つの要素(地形要素)に従って分類しています。

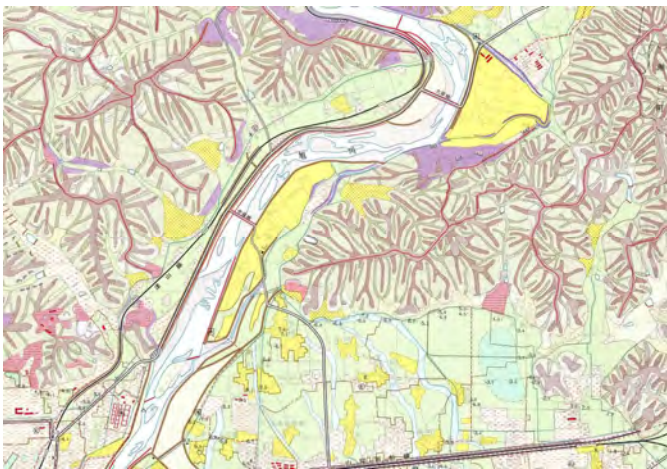


図1 土地条件図

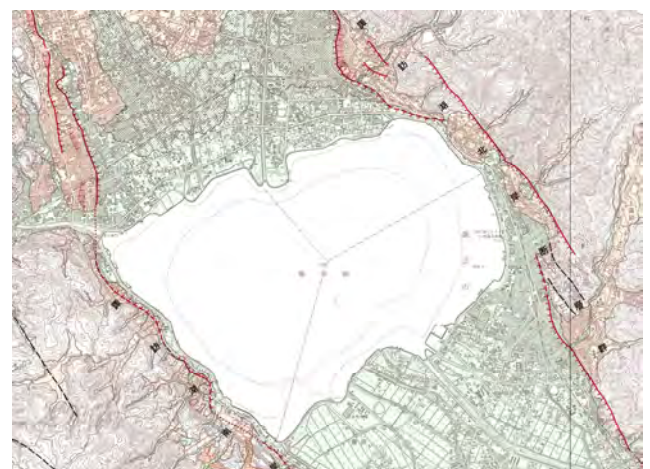


図2 都市圏活断層図

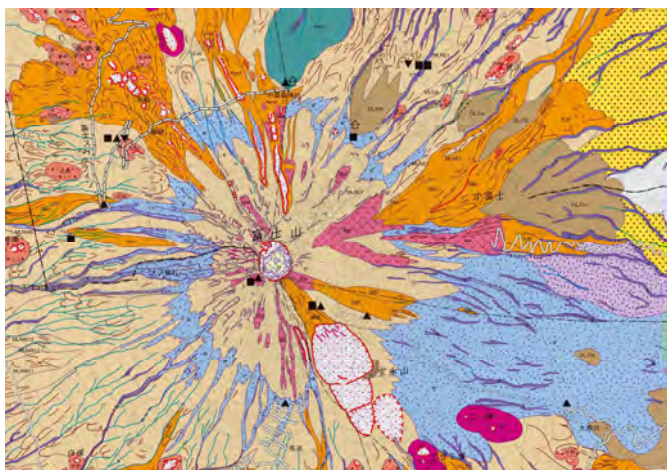


図3 火山土地条件図



図4 治水地形分類図

出典:山から海へ川がつくる地形(国土地理院)より

ハザードマップポータルサイト

ハザードマップ(国土交通省ハザードマップポータルサイト)
<http://disaportal.gsi.go.jp/>

当ハザードマップポータルサイトでは、災害時の避難や、事前の防災対策に役立つ情報を公開しています。

例えば、大雨が降ったとき、どこが浸水する恐れがあるか?、どこで土砂災害の危険があるのか?など調べることができます。このような防災に関する様々な情報がわかりますので、避難計画や防災対策に役に立ちます。

1)重なるハザードマップ

様々な防災に役立つ情報を、全国どこでも一つの地図上に重ねて閲覧できます。

各種ハザードマップ

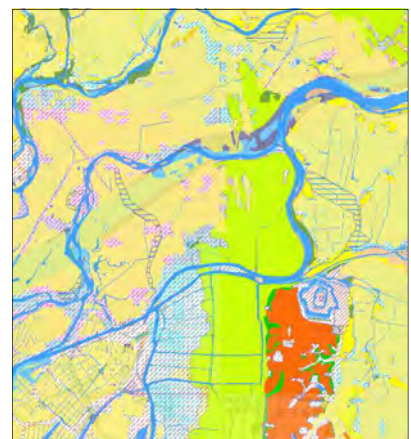
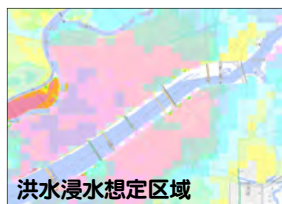
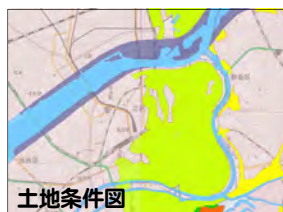
洪水浸水想定区域、津波浸水想定区域、土砂災害危険箇所…。

災害時に役立つ情報

道路冠水想定箇所、事前通行規制区間、緊急輸送道路

防災に役立つ地理情報

写真、土地条件図、治水地形分類図、明治前期の低湿地、色別標高図…。

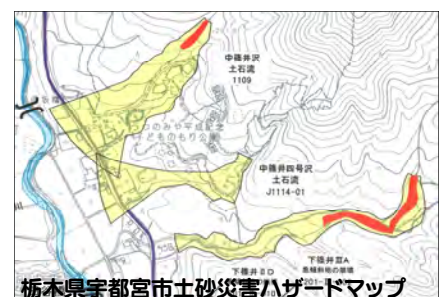


洪水浸水想定区域、土地条件図、明治期の低湿地データを重ねて表示

2)わがまちのハザードマップ

様々な種類の全国市町村のハザードマップを閲覧できます。

洪水ハザードマップ、内水ハザードマップ、土砂災害ハザードマップ…。



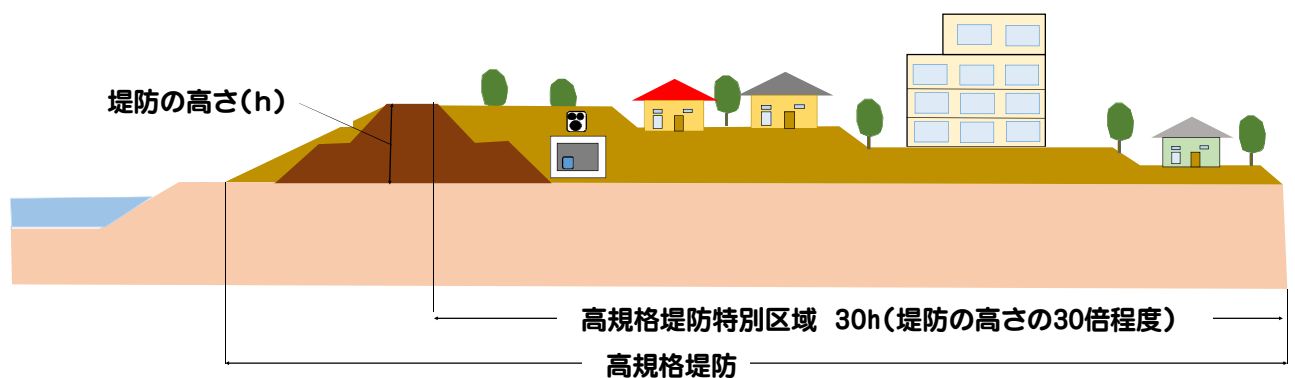
出典:「国土交通省ハザードマップポータルサイト」(<http://disaportal.gsi.go.jp/>)

高規格堤防(スーパー堤防)

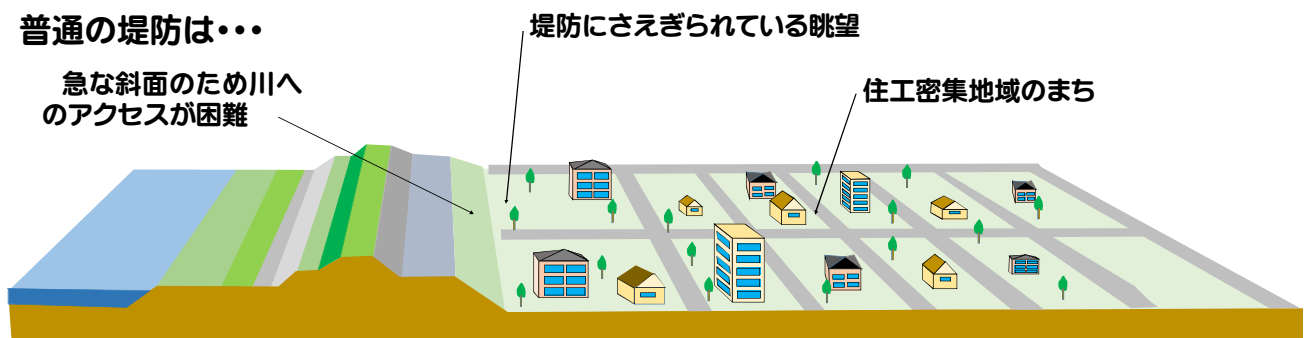
高規格堤防(スーパー堤防)

高規格堤防とは、土でできたゆるやかな勾配を持つ幅の広い堤防で、広くなった堤防の上は、通常の土地利用が可能です。

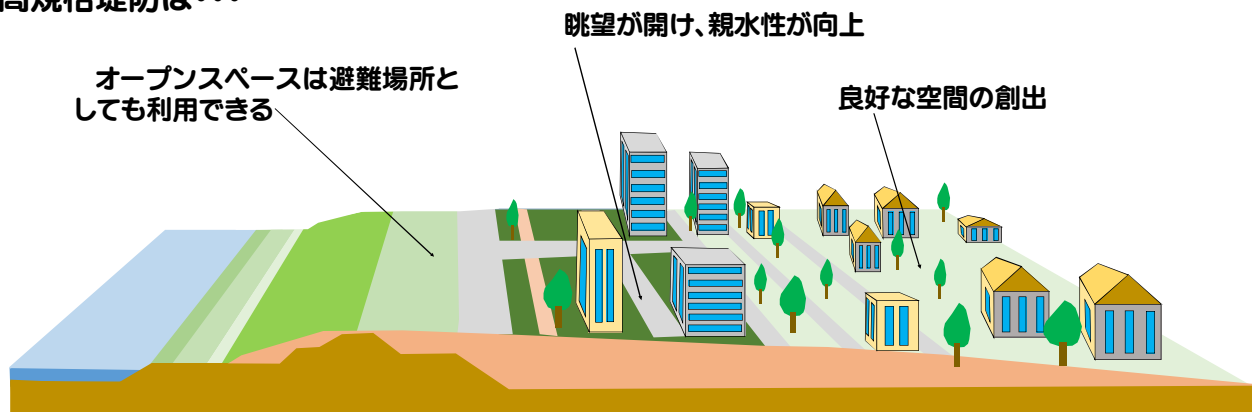
この高規格堤防は、堤防の幅を広くして決壊を防ぐなど、地震にも強く、万が一計画を超えるような大洪水が起きた場合でも水が溢れることはあっても壊滅的な被害をさけることができます。



普通の堤防は...



高規格堤防は...



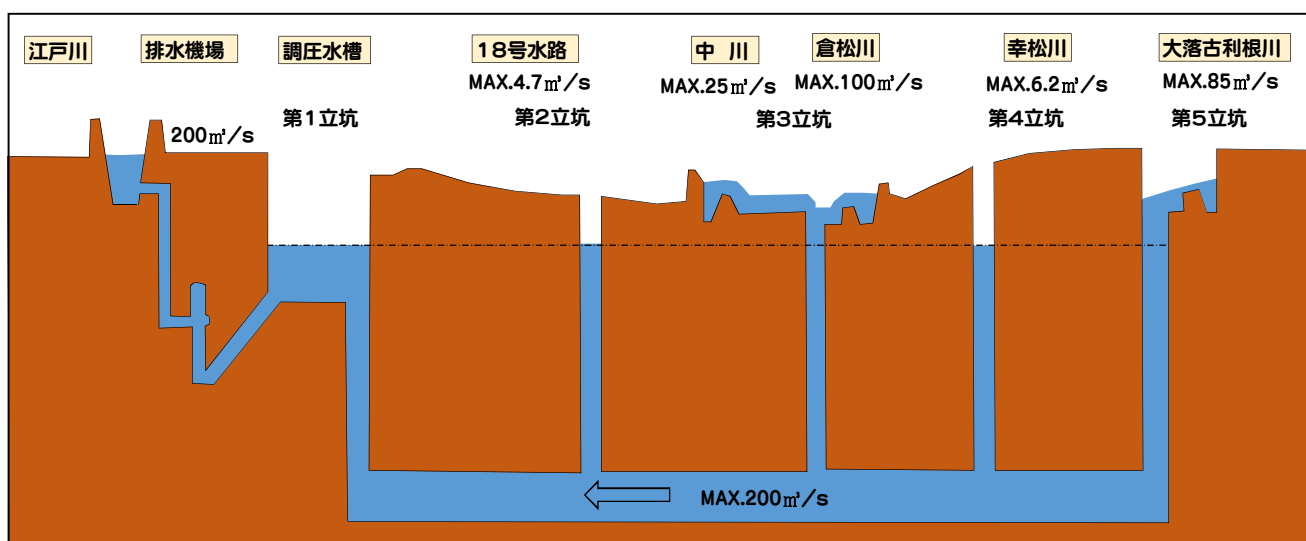
首都圏外郭放水路(地下放水路)

首都圏外郭放水路(地下放水路)

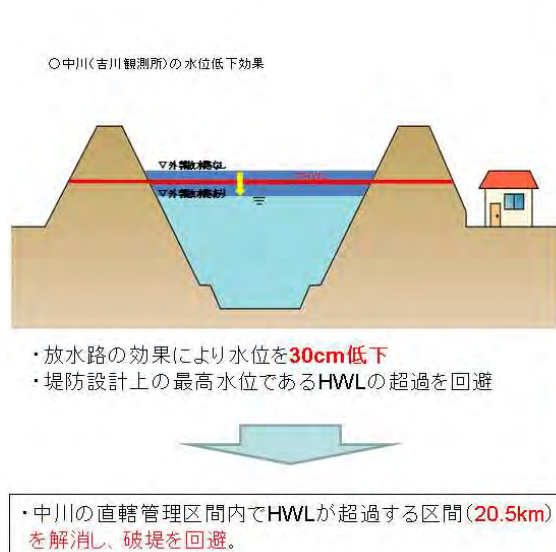
放水路は、三郷放水路や綾瀬川放水路のような地上開水路方式が一般的ですが、本施設は地下河川方式とし、あふれそうになった中小河川の水を地下へ取り込み、地下50mを貫く総延長6.3kmのトンネルを通して江戸川に流す、世界最大級の地下放水路です。

施設は、河川から水を取り入れる流入施設、地下で貯水したり、流下する地下水路、そして地下水路から排出する排水機場等で構成されます。

この整備は、中川・倉松川・大落古利根川等の洪水の際、その水の一部を江戸川へ放流し、浸水被害を解消または軽減するためのものです。

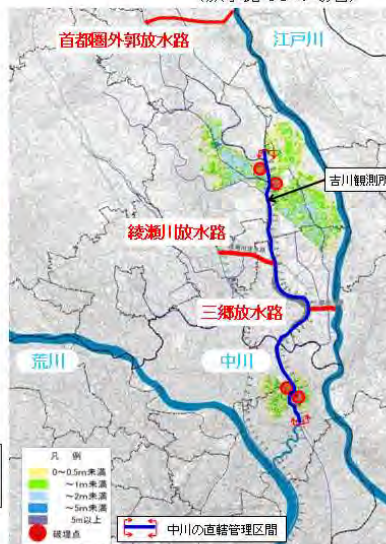


外水氾濫の防止効果(シミュレーション)



※S33.9 狩野川台風が襲来した場合
※河川は20年~30年後の整備状況を仮定

○中川直轄管理区間で堤防が決壊した場合(放水路なしの場合)



○放水路があった場合でも内水被害は発生するものの、その効果により約**1兆4000億円**の被害軽減

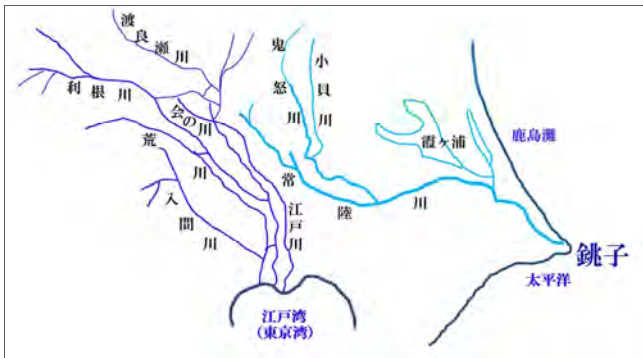
利根川東遷事業

利根川の流れを東京湾から太平洋へ

日本三大暴れ川の代表である利根川は、江戸時代以前は関東平野中央部を南へ乱流しながら、荒川に合流し、現在の隅田川を通り江戸湾に流れ込んでいました。その為、江戸の人々は、利根川、荒川のたび重なる水害に悩まされていました。

徳川家康が江戸に入府した天正18年(1590年)、治水巧者として知られていた伊奈忠次いなただつくに命じ、江戸の下町を水害から守ると共に、新田開発を推進し、舟運を開いて東北との経済交流を図ることに加え、伊達政宗に対する防備を図るために、江戸湾に流れ込んでいた利根川の流れを常陸川に付け替え、太平洋へ向かわせようとする。いわゆる「利根川東遷事業」を行いました。

江戸時代以前



現在の利根川



出典：国土地理院技術資料（利根川及荒川の洪水調査報告 昭和22年9月洪水 カスリーン台風災害調査報告附図）の一部を使用

過去の水害状況

昭和20年(1945年)から平成27年(2015年)までに被害をもたらした主な水害

発生年(西暦)	災害名	災害発生期間	おもな被害地域	概要	人的被害	住居被害
昭和20年(1945年)	枝崎台風	9月17日～9月18日	西日本	戦時直後を襲った猛烈台風。	死者2,473名、行方不明者1,283名、負傷者2,452名	損壊89,839棟 浸水273,888棟
昭和20年(1945年)	阿久根台風	10月9日～10月13日	全国	全国で暴風雨、兵庫県で大きな被害。	死者377名、行方不明者74名、負傷者202名	損壊6,181棟 浸水174,146棟
昭和22年(1947年)	カスリーン台風	9月14日～9月15日	東海以東	典型的な「雨台風」。利根川・荒川流域で東京など関東平野が水浸し。群馬・栃木両県で死者・行方不明者1,100名以上。	死者1,077名、行方不明者853名、負傷者1,547名	損壊9,298棟 浸水384,743棟
昭和23年(1948年)	低気圧	9月11日～9月12日	九州北部	九州北部で大雨。	死者121名、行方不明者126名、負傷者317名	全壊391棟、半壊872棟 床上浸水246棟、床下浸水2,026棟
昭和23年(1948年)	アイオン台風	9月15日～9月17日	西国から東北にかけて	岩手県で甚大な被害。	死者512名、行方不明者326名、負傷者1,956名	全壊5,889棟、半壊12,127棟 床上浸水44,867棟、床下浸水75,168棟
昭和24年(1949年)	デラ台風	6月18日～6月22日	西日本	全国で水害、愛媛県で漁船多数遭難。	死者252名、行方不明者216名、負傷者307名	全壊1,410棟、半壊4,005棟 床上浸水4,627棟、床下浸水52,926棟
昭和24年(1949年)	ジュディス台風	8月13日～8月18日	九州	九州で大きな被害。	死者154名、行方不明者25名、負傷者213名	全壊569棟、半壊1,966棟 床上浸水33,680棟、床下浸水68,314棟
昭和24年(1949年)	キティ台風	8月31日～9月1日	関東	関東地方で大きな被害。	死者135名、行方不明者25名、負傷者479名	全壊3,733棟、半壊13,470棟 床上浸水51,899棟、床下浸水92,161棟
昭和25年(1950年)	シェーン台風	9月3日～9月4日	近畿	大阪湾で顕著な高潮、大阪・兵庫・和歌山などで大きな被害。	死者398名、行方不明者141名、負傷者26,062名	全壊19,131棟、半壊101,792棟 床上浸水93,116棟、床下浸水308,960棟
昭和26年(1951年)	低気圧と梅雨前線	7月7日～7月17日	西日本	梅雨前線が活発化、中部地方以西で大雨。	死者162名、行方不明者144名、負傷者358名	全壊630棟、半壊727棟 床上浸水13,532棟、床下浸水89,766棟
昭和26年(1951年)	ルース台風	10月10日～10月15日	九州、中国	鹿児島県で強風・高潮警、山口県で土砂災害。	死者572名、行方不明者371名、負傷者2,644名	全壊24,716棟、半壊47,948棟 床上浸水30,110棟、床下浸水108,163棟
昭和27年(1952年)	ダイナ台風	6月22日～6月24日	東海、関東	紀伊半島から東海・関東を通過、静岡などで被害。	死者65名、行方不明者70名、負傷者28名	全壊73棟、半壊89棟 床上浸水4,020棟、床下浸水35,692棟
昭和27年(1952年)	梅雨前線	7月10日～7月12日	近畿	近畿地方で大雨、大阪府で大きな被害。	死者67名、行方不明者73名、負傷者101名	全壊356棟、半壊238棟 床上浸水20,733棟、床下浸水21,456棟
昭和28年(1953年)	梅雨前線	6月23日～6月30日	九州	九州北部に大雨。	死者748名、行方不明者265名、負傷者2,720名	全壊5,699棟、半壊11,671棟 床上浸水199,979棟、床下浸水254,664棟
昭和28年(1953年)	南紀豪雨	7月16日～7月25日	東北以西	和歌山県で豪雨、有田川、日高川が氾濫、死者・行方不明者1,000人を超える。	死者713名、行方不明者411名、負傷者5,819名	全壊7,704棟、半壊2,125棟 床上浸水20,277棟、床下浸水66,202棟
昭和28年(1953年)	南山城の大雨	8月11日～8月15日	近畿、北陸	京都府・三重県境で局地豪雨。	死者290名、行方不明者140名、負傷者994名	全壊693棟、半壊765棟 床上浸水6,222棟、床下浸水18,894棟
昭和28年(1953年)	台風第13号	9月22日～9月26日	東海、近畿、北陸、西国、中国東部	愛知県に上陸、東海、近畿、北陸で大きな被害。	死者393名、行方不明者85名、負傷者2,559名	全壊8,604棟、半壊17,467棟 床上浸水144,300棟、床下浸水351,575棟
昭和29年(1954年)	台風第12号	9月10日～9月14日	九州	福岡に上陸、九州で大きな被害。	死者107名、行方不明者37名、負傷者311名	全壊2,162棟、半壊5,749棟 床上浸水45,040棟、床下浸水136,756棟
昭和29年(1954年)	洞爺丸台風	9月24日～9月27日	九州、西国、中国、北海道南部	日本海を暴走しながら猛スピードで進む、青函連絡船「洞爺丸」遭難。	死者1,361名、行方不明者400名、負傷者1,601名	全壊8,396棟、半壊21,771棟 床上浸水17,569棟、床下浸水85,964棟
昭和31年(1956年)	突進した低気圧	4月17日～4月18日	北海道	北海道で融雪洪水、漁船の遭難、東北、関東で大火。	死者47名、行方不明者53名	全壊2棟、半壊0棟 床上浸水1,087棟、床下浸水1,320棟
昭和32年(1957年)	諫早豪雨	7月25日～7月28日	九州	日降水量1,000mmを超える局地豪雨。	死者586名、行方不明者136名、負傷者3,860名	全壊1,564棟、半壊2,802棟 床上浸水24,046棟、床下浸水48,519棟
昭和33年(1958年)	狩野川台風	9月26日～9月28日	関東、東北	狩野川が氾濫し大被害。首都圏でもがけ崩れや浸水の被害。	死者888名、行方不明者381名、負傷者1,138名	全壊2,118棟、半壊2,175棟 床上浸水132,227棟、床下浸水389,488棟
昭和34年(1959年)	台風第7号	8月12日～8月14日	近畿、中部、関東	中部地方で暴風と大雨による被害大。	死者188名、行方不明者47名、負傷者1,528名	全壊4,089棟、半壊10,139棟 床上浸水32,298棟、床下浸水116,309棟
昭和34年(1959年)	宮古島台風	9月15日～9月18日	宮古島	猛烈な風。宮古島で最大瞬間風速64.8m/s。	死者47名、行方不明者52名、負傷者509名	損壊16,632棟 浸水14,360棟
昭和34年(1959年)	伊勢湾台風	9月26日～9月27日	全国	高潮による被害顕著。台風による死者・行方不明者最大。	死者4,697名、行方不明者401名、負傷者38,921名	全壊40,838棟、半壊113,052棟 床上浸水157,858棟、床下浸水205,753棟
昭和36年(1961年)	昭和36年梅雨前線豪雨	6月24日～7月5日	全国	全国で大雨被害。長野県伊那谷で大きな被害。	死者302名、行方不明者55名、負傷者1,320名	全壊1,758棟、半壊1,908棟 床上浸水73,128棟、床下浸水341,236棟
昭和36年(1961年)	第二室戸台風	9月15日～9月17日	西日本	暴風と高潮による被害。室戸岬で最大瞬間風速84.5m/s以上。	死者194名、行方不明者8名、負傷者4,972名	全壊15,238棟、半壊46,663棟 床上浸水123,103棟、床下浸水261,017棟
昭和36年(1961年)	前線、台風第26号	10月25日～10月28日	西日本、関東	西日本・中部・関東で水害。大部分では電車が埋まり多数の死者。	死者78名、行方不明者31名、負傷者86名	全壊234棟、半壊444棟 床上浸水10,435棟、床下浸水50,313棟
昭和37年(1962年)	梅雨前線による大雨	7月1日～7月8日	関東以西	関東以西の各地に大雨。佐賀県で大規模な土砂災害。	死者110名、行方不明者17名、負傷者114名	全壊263棟、半壊285棟 床上浸水6,108棟、床下浸水92,448棟
昭和39年(1964年)	昭和39年7月山陰豪雨	7月17日～7月20日	山陰、北陸	日降水量200mmを超える集中豪雨。出雲地方で大被害。	死者114名、行方不明者18名、負傷者221名	全壊669棟 床上浸水9,360棟、床下浸水48,616棟
昭和40年(1965年)	台風第23、24、25号	9月10日～9月18日	全国	3つの台風が相次いで上陸、接近。全国で暴風と大雨の被害甚大。	死者153名、行方不明者28名、負傷者1,206名	全壊1,879棟、半壊3,529棟 床上浸水46,183棟、床下浸水258,239棟
昭和41年(1966年)	第2宮古島台風	9月4日～9月8日	宮古島	宮古島では長時間にわたり暴風。宮古島で最大瞬間風速85.3m/s。	負傷者41名	損壊7,765棟 浸水30棟
昭和41年(1966年)	台風第24、26号	9月23日～9月25日	西日本から東北	同日に2つの台風が西日本と東日本に上陸。山梨県富士山麓で土石崩れにより多数の死者。	死者238名、行方不明者79名、負傷者824名	全壊2,422棟、半壊6,431棟 床上浸水8,834棟、床下浸水42,792棟
昭和42年(1967年)	昭和42年7月豪雨	7月8日～9月9日	九州北部、中国、近畿	都市部で大きな被害。佐世世で1時間125mmの大雨。	死者351名、行方不明者18名、負傷者618名	全壊901棟、半壊1,365棟 床上浸水51,353棟、床下浸水250,092棟
昭和42年(1967年)	羽越豪雨	8月26日～8月29日	新潟県、山形県	新潟県と山形県で大雨。	死者83名、行方不明者55名、負傷者155名	全壊449棟、半壊408棟 床上浸水26,641棟、床下浸水39,542棟
昭和43年(1968年)	寒冷前線による大雨	8月17日	近畿、東海	近畿地方、東海地方で大雨。岐阜県飛騨川でバス転落。	死者106名、行方不明者13名、負傷者29名	全壊64棟、半壊79棟 床上浸水2,061棟、床下浸水13,460棟
昭和43年(1968年)	第3宮古島台風	9月22日～9月27日	宮古島、九州東部、西国南部、紀伊半島南部	またも宮古島で甚大な被害。宮古島で最大瞬間風速79.8m/s。	死者11名、負傷者80名	損壊5,715棟 浸水15,322棟
昭和47年(1972年)	昭和47年7月豪雨	7月3日～7月15日	九州から東北	全国で豪雨災害相次ぐ。熊本県阿蘇市、高知県土佐田町で土石崩れにより多数の死者。	死者421名、行方不明者26名、負傷者1,056名	全壊2,977棟、半壊10,204棟 床上浸水55,537棟、床下浸水276,291棟
昭和49年(1974年)	前線、低気圧、台風第6号	5月29日～6月1日	全国	梅雨前線により全国で大雨。土砂災害多発。	死者145名、行方不明者11名、負傷者496名	全壊657棟、半壊1,131棟 床上浸水77,933棟、床下浸水317,623棟
昭和51年(1976年)	台風第17号	9月8日～9月14日	全国	全国的に記録的な大雨。	死者161名、行方不明者10名、負傷者537名	全壊1,689棟、半壊3,674棟 床上浸水101,103棟、床下浸水433,392棟
昭和52年(1977年)	沖永良部台風	9月8日～9月10日	沖永良部島及び九州から東北の太平洋側	沖永良部島で最低気圧907.3hPa。	死者1名	損壊5,119棟 浸水3,207棟
昭和54年(1979年)	台風第20号	10月10日～10月20日	全国	日本列島縦断、全国で暴風。	死者110名、行方不明者5名、負傷者543名	全壊139棟、半壊1,287棟 床上浸水8,156棟、床下浸水47,943棟
昭和57年(1982年)	昭和57年7月豪雨と台風第10号	7月～9月	全国	長崎県を中心に記録的な大雨(長崎豪雨)、台風第10号は東海地方に上陸。	死者427名、行方不明者12名、負傷者1,175名	全壊1,120棟、半壊1,919棟 床上浸水45,367棟、床下浸水166,473棟
昭和58年(1983年)	昭和58年7月豪雨	7月20日～7月29日	山陰以東	鳥取県を中心に大雨。	死者112名、行方不明者5名、負傷者193名	全壊1,098棟、半壊2,040棟 床上浸水7,484棟、床下浸水13,264棟
昭和61年(1986年)	台風第10号による豪雨 ※下総市内の小貝川水害	8月4日～8月5日	栃木県東部	栃木県東部地域を中心に集中豪雨。茨城県で一般河川川流が洪水氾濫。茨城県下総市内小貝川が利根川系小貝川の氾濫により浸水。	死者19名、行方不明者1名、負傷者107名	全壊130棟、半壊357棟 床上浸水31,504棟、床下浸水76,635棟
平成元年(1989年)	台風第11、12、13号	7月24日～8月7日	全国	3つの台風が相次いで上陸、接近。	死者29名、行方不明者2名、負傷者96名	全壊59棟、半壊177棟 床上浸水6,338棟、床下浸水18,121棟
平成元年(1989年)	前線、低気圧、台風第17、20号	8月25日～9月20日	全国	台風17号が西国・北陸・北海道に上陸。その後日本付近に前線が停滞し、西日本から中部地方で大雨による浸水災害。9月17日に台風20号九州南部に上陸し、北九州を襲い、太平洋側中心に大雨。	死者・行方不明者35名、負傷者41名	全壊59棟、半壊41棟 床上浸水28,118棟、床下浸水58,625棟

過去の水害状況

昭和20年(1945年)から平成27年(2015年)までに被害をもたらした主な水害

発生年(西暦)	災害名	災害発生期間	おもな被害地域	概 要	人的被害	住 宅 被害	住 宅 被害
平成2年(1990年)	梅雨前線	6月2日～7月22日	全国	九州地方を中心に大きな被害。	死者32名、負傷者109名	全壊210棟、半壊290棟	床上浸水10,186棟、床下浸水39,419棟
平成2年(1990年)	前線、台風第19号	9月11日～9月20日	全国	台風が和歌山県に上陸し、本州縦断。西日本で総降水量1,000mmを超える。	死者42名、行方不明者2名、負傷者197名	全壊240棟、半壊816棟	床上浸水6,333棟、床下浸水58,029棟
平成2年(1990年)	前線、台風第20号	9月26日～10月1日	九州、四国、紀伊半島、東海、関東の太平洋側	台風が和歌山県に上陸。九州から関東の太平洋側で大雨。	死者5名、行方不明者1名、負傷者24名	全壊32棟、半壊40棟	床上浸水3,280棟、床下浸水11,134棟
平成3年(1991年)	梅雨前線	6月2日～8月8日	全国	梅雨前線の活動が長期間活発、各地に被害。	死者8名、負傷者11名	全壊7棟、半壊18棟	床上浸水1,073棟、床下浸水94,735棟
平成3年(1991年)	前線、台風第17、18、19号	9月12日～9月28日	全国	台風が相次いで日本に上陸・接近。台風第19号の暴風による死者多数。	死者84名、行方不明者2名、負傷者3,133名	全壊1,177棟、半壊14,287棟	床上浸水18,815棟、床下浸水70,585棟
平成5年(1993年)	梅雨前線、台風第4、5、6号	5月13日～7月30日	全国	前線の活動が長期間活発。台風第4号四国に上陸。九州南部で年間降水量に匹敵する大雨。台風第5号、第6号相次いで九州へ上陸。	死者・行方不明者40名、負傷者59名	全壊82棟、半壊81棟	床上浸水1,425棟
平成5年(1993年)	梅雨前線、台風第7、11号	7月31日～8月29日	全国	九州南部を中心に甚大な被害。平成5年(1993年)8月豪雨(7/31～8/7)	死者・行方不明者93名、負傷者219名	全壊525棟、半壊425棟	床上浸水16,496棟
平成5年(1993年)	台風第13号	9月1日～9月5日	西日本	非常に強い勢力で九州南部に上陸。種子島で最大瞬間風速59.1m/s、宮崎県日之影町で日降水量540mm。	死者・行方不明者48名、負傷者398名	全壊336棟、半壊1,448棟	床上浸水3,770棟
平成7年(1995年)	梅雨前線	6月30日～7月22日	全国	信越地方を中心に甚大な被害。	死者4名、行方不明者1名、負傷者16名	全壊85棟、半壊126棟、一部損壊405棟	床上浸水2,195棟、床下浸水16,013棟
平成8年(1996年)	台風第17号	9月21日～9月23日	関東地方南部	房総半島沖を北東進、関東南部や伊豆諸島で暴風雨。総降水量記録53.5mm/s。東京都新宿で総降水量が391mm。	死者13名、負傷者94名	全壊13棟、半壊68棟	床上浸水2,900棟、床下浸水10,018棟
平成9年(1997年)	梅雨前線、低気圧	7月1日～7月17日	東北以西	西日本から中部地方で大雨。鹿児島県出水市で土石流被害。熊本県志村村で総降水量1,495mm。	死者26名、負傷者17名	全壊36棟、半壊20棟、一部損壊94棟	床上浸水3,888棟、床下浸水8,786棟
平成9年(1997年)	台風第19号	9月13日～9月17日	九州、四国、中国、東海	九州南部に上陸。九州南部や四国で暴風。西日本から中部地方の太平洋側で大雨。宮崎県日之影町で日降水量688mm。	死者10名、負傷者26名	全壊35棟、半壊39棟、一部損壊1,194棟	床上浸水4,016棟、床下浸水13,535棟
平成10年(1998年)	梅雨前線	8月3日～8月7日	北陸	新潟県(下越、佐渡)で記録的な大雨(平成10年8月上旬豪雨)。新潟で日降水量265mm。	死者2名、負傷者3名	全壊3棟、半壊16棟、一部損壊18棟	床上浸水2,560棟、床下浸水15,134棟
平成10年(1998年)	前線、台風第4号 ※那珂川水害	8月26日～8月31日	東日本	栃木県北部から福島県にかけて記録的な大雨(平成10年8月豪雨)。栃木県那須町で日降水量907mm。	死者・行方不明者22名、負傷者55名	全壊122棟、半壊142棟	床上浸水3,332棟、床下浸水11,517棟
平成10年(1998年)	台風第5、8、7号、前線	9月15日～9月25日	東日本、近畿、中国、四国	台風第5号神奈川に上陸後、北日本を縦断。関東で暴風。東日本から北日本で大雨。台風第8号、7号が2日連続して近畿地方に上陸。前線により高知県で記録的な大雨。	死者・行方不明者35名、負傷者670名	全壊126棟、半壊1,211棟	床上浸水11,672棟、床下浸水24,699棟
平成10年(1998年)	前線、台風第10号	10月15日～10月18日	西日本	九州南部に上陸。西日本縦断。和歌山で最大瞬間風速53.8m/s。	死者・行方不明者13名、負傷者71名	全壊34棟、半壊41棟	床上浸水3,471棟、床下浸水11,007棟
平成11年(1999年)	梅雨前線、低気圧 ※福岡水害	6月23日～7月3日	西日本	西日本で激しい雨。福岡市で地下街に浸水。広島県で土石流発生。	死者38名、行方不明者1名、負傷者78名	全壊127棟、半壊100棟	床上浸水3,669棟、床下浸水16,346棟
平成11年(1999年)	台風第18号	9月21日～9月25日	西日本	熊本県に上陸。熊本県で顕著な高潮被害。南西諸島・九州・中国地方で猛烈な風。中部地方で大雨。愛知県で竜巻発生。	死者31名、負傷者1,218名	全壊338棟、半壊3,629棟	床上浸水4,895棟、床下浸水14,755棟
平成12年(2000年)	停滞前線、台風第14、15、17号	9月8日～9月17日	本州、四国、九州	東海地方で記録的な大雨。7万棟が浸水。名古屋で日降水量423mm。	死者10名、行方不明者2名、負傷者118名	全壊30棟、半壊176棟、一部損壊185棟	床上浸水22,885棟、床下浸水46,342棟
平成14年(2002年)	台風第6号、梅雨前線	7月6日～7月12日	東日本	房総半島に上陸。中部地方から東北地方で大雨。関東南部で暴風。岐阜県稲穂村で日降水量495mm、八丈島で最大瞬間風速46.1m/s。	死者6名、行方不明者1名、負傷者39名	全壊27棟、半壊55棟、一部損壊415棟	床上浸水2,453棟、床下浸水8,400棟
平成15年(2003年)	前線、低気圧	7月18日～7月21日	西日本	梅雨前線が日本海に停滞。九州北部で1時間50mmを超える非常に激しい雨。	死者23名、負傷者25名	全壊51棟、半壊56棟、一部損壊161棟	床上浸水3,556棟、床下浸水4,188棟
平成16年(2004年)	平成16年7月新潟・福島豪雨	7月12日～7月14日	新潟県、福島県	新潟県中越地方や福島県会津地方で記録的な大雨。	死者16名、負傷者83名	全壊71棟、半壊5,657棟、一部損壊82棟	床上浸水1,916棟、床下浸水6,261棟
平成16年(2004年)	平成16年7月福井豪雨	7月17日～7月18日	福井県、岐阜県	福井県や岐阜県で大雨。福井県美山では1日で半年の月降水量を上回る降水量。	死者4名、行方不明者1名、負傷者19名	全壊57棟、半壊142棟、一部損壊212棟	床上浸水3,323棟、床下浸水10,334棟
平成16年(2004年)	台風第16号	8月27日～8月31日	西日本	高松港、宇野港などで観測開始以来最も高い潮位を観測。神戸内中心に高潮被害顕著。	死者14名、行方不明者3名、負傷者260名	全壊51棟、半壊205棟、一部損壊9,921棟	床上浸水14,456棟、床下浸水31,764棟
平成16年(2004年)	台風第18号	9月4日～9月8日	全国	沖縄地方から北海道地方にかけて、各地で猛烈な風。広島で最大瞬間風速80.2m/s、札幌で90.2m/s。	死者43名、行方不明者3名、負傷者1,399名	全壊144棟、半壊1,506棟、一部損壊63,343棟	床上浸水1,328棟、床下浸水19,758棟
平成16年(2004年)	台風第21号、秋分前線	9月25日～9月30日	東北以西	三重県では1時間に130mmを超える猛烈な大雨。高野の日降水量746.5mm。	死者26名、行方不明者1名、負傷者107名	全壊75棟、半壊818棟、一部損壊1,629棟	床上浸水5,385棟、床下浸水15,431棟
平成16年(2004年)	台風第23号、前線	10月10日～10月21日	東北以西	広い範囲で大雨。土砂崩れや浸水等により甚大な被害。	死者95名、行方不明者3名、負傷者721名	全壊807棟、半壊7,929棟、一部損壊12,514棟	床上浸水13,341棟、床下浸水41,006棟
平成17年(2005年)	台風第14号、前線	9月3日～9月8日	全国	九州・四国・中国地方で長時間にわたる暴風雨。高波。4日夜、東京都と埼玉県で局地的に1時間に100mmを超える猛烈な雨。	死者28名、行方不明者1名、負傷者177名	全壊1,217棟、半壊3,896棟、一部損壊3,142棟	床上浸水3,551棟、床下浸水9,656棟
平成18年(2006年)	平成18年7月豪雨	7月15日～7月24日	東北以西	長野県、鹿児島県を中心に九州、山陰、近畿、北陸地方の広い範囲で大雨。	死者28名、行方不明者2名、負傷者46名	全壊275棟、半壊1,264棟、一部損壊1,699棟	床上浸水1,572棟、床下浸水5,424棟
平成20年(2008年)	平成20年8月未定豪雨	8月26日～8月31日	東海、関東、中国、東北	愛知県を中心に東海・関東・中国および東北地方などで記録的な大雨。	死者2名、負傷者7名	全壊8棟、半壊7棟、一部損壊41棟	床上浸水3,106棟、床下浸水19,355棟
平成21年(2009年)	平成21年7月中国・九州北部豪雨	7月19日～7月26日	中国、九州	九州北部・中国・四国地方などで大雨。	死者36名、負傷者59名	全壊52棟、半壊102棟、一部損壊230棟	床上浸水2,138棟、床下浸水9,733棟
平成21年(2009年)	熱帯低気圧・台風第9号による大雨	8月9日～8月11日	東北以西	九州から東北地方の広い範囲で大雨。	死者25名、行方不明者2名、負傷者23名	全壊183棟、半壊1,130棟、一部損壊34棟	床上浸水9,746棟、床下浸水4,645棟
平成23年(2011年)	台風第12号による大雨	8月30日～9月6日	関東、中部、近畿	紀伊半島を中心に記録的な大雨。	死者82名、行方不明者16名、負傷者113名	全壊379棟、半壊3,159棟、一部損壊470棟	床上浸水5,500棟、床下浸水16,594棟
平成24年(2012年)	平成24年7月九州北部豪雨	7月11日～7月14日	九州	九州北部を中心に大雨。	死者30名、行方不明者3名、負傷者34名	全壊276棟、半壊2,306棟、一部損壊192棟	床上浸水2,574棟、床下浸水8,409棟
平成25年(2013年)	台風第18号による大雨	9月15日～9月16日	四国から北海道	四国地方から北海道の広い範囲で大雨。	死者6名、行方不明者1名、負傷者143名	全壊48棟、半壊208棟、一部損壊1,394棟	床上浸水3,011棟、床下浸水7,078棟
平成25年(2013年)	台風第26号による暴風・大雨	10月14日～10月16日	西日本から北日本	西日本から北日本の広い範囲で暴風・大雨。	死者40名、行方不明者3名、負傷者130名	全壊86棟、半壊61棟、一部損壊947棟	床上浸水1,884棟、床下浸水4,258棟
平成26年(2014年)	前線による大雨 ※平成26年8月豪雨 (7月30日～8月20日)	8月15日～8月20日	広島県	西日本から東日本の広い範囲で大雨。	死者76名、負傷者68名	全壊179棟、半壊2,177棟、一部損壊190棟	床上浸水1,086棟、床下浸水3,097棟
平成27年(2015年)	台風第16号等による大雨 ※平成27年8月関東・東北豪雨 (9月9日～9月11日)	9月7日～9月11日	関東、東北	関東、東北で記録的な大雨。	死者8名、負傷者79名	全壊79棟、半壊6,014棟、一部損壊410棟	床上浸水2,870棟、床下浸水10,059棟

出典：気象庁Webページ

① 災害をもたらした気象事例(昭和20～63年)：昭和20年(1945年)から昭和63年(1988年)までに発生した気象庁が命名した台風の事例および死者・行方不明者数が100名以上の風水害の事例。

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/index_1945.html

② 災害をもたらした気象事例(平成元年～本年)：平成元年(1989年)から平成27年(2015年)までに発生した気象庁が命名した台風の事例および被害を総合的にみて規模の大きなもの、社会的な関心・影響が高いもの。

http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/report/index_1989.html

上記の情報をもとに、人的被害「死者20名以上」、住宅被害「全壊と半壊の計が5,000棟以上」、住宅被害「床上浸水と床下浸水の計が10,000棟以上」のいずれかに該当する災害について、一覧表に掲載した。